

緑のセンターだより

No.206

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行: 令和6年2月1日

講習会のご案内

(講習会の受付は前月の20日から、20日が休館日の場合は、翌日の21日から)

講習会の案内は、広報旭川市民「あさひばし」に掲載します

「果樹の剪定と栽培管理」～リンゴ、サクランボ、プラムほか～

日時 令和6年2月10日(土) 定員30名

午後1時00分～3時00分

講師 ふじくらますも果樹園 増茂 聡さん

※講座受付中(参加希望の方は、お問合せください)

「麻ひもで編むプランターハンガー作り講座」

日時 令和6年 2月20日(火) 定員5名

午後1時00分～3時00分 料金500円

講師 緑のセンター職員(フラワーマスター)

※講座受付中(参加希望の方は、お問合せください)

「神楽岡公園 冬の自然観察会」～冬の園内を探索しよう～

日時 令和6年2月23日(金・祝) 定員15名

午前10時00分～12時00分

講師 森の写真家 阿久津 弘明さん

森林インストラクター 佐藤 まゆみさん

※講座受付中(参加希望の方は、お問合せください)

「フラワーアレンジメントづくり」

日時 令和6年3月2日(土)

午後1時00分～3時00分 定員10名

講師 マミフラワーデザインスクール

専任講師 澤沼 雅子さん

料金 2,500円

※講座の受付は、2月20日(火) 午前9時～



X(旧ツイッター)では、緑のセンター

の講習会や展示会の情報や神楽岡公園、

緑のセンター(温室)等の情報を投稿しています。

展示会のご案内

「神楽岡公園の自然写真展」

日時 令和6年1月6日(土)～2月25日(日)

作品提供 阿久津 弘明さん

神楽岡公園 歩くスキーコース



受付時間: 午前10時～午後4時まで

休館日: 毎週月曜日(コース状況などは、緑のセンターにご確認ください)

👉 歩くスキーセットの無料貸出(2月末日まで)

①スキー板 ②スキーポール ③スキー靴(サイズ調整のため、靴下ご持参ください)

歩くスキーコースの利用は、3月上旬頃までを予定

桜の剪定枝無料配布のお知らせ

市内公園の樹木管理作業で、不要になった桜の剪定枝を、初春の切り花として楽しんでもらえるよう、50名に無償で配布します。

応募方法: 通常はがき「桜の剪定枝希望」と記入し、郵便番号、ご住所、お名前を記入のうえ、宛先: **〒078-8327 旭川市神楽岡公園1番 旭川市緑のセンター宛**に郵送ください。お一人様1枚とさせていただきます2枚目以降は無効になります。

※応募多数の場合は抽選。発表は当選者のみに、はがきで通知します。

応募締切: 2月9日(金) 当日消印有効

【休館日のお知らせ】

4月～10月は、第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月～3月は、毎週月曜日が休館日です。(")



2月の園芸作業

1、鉢花・草花・球根類

- 開花中の**アザレア**は 15℃程度の部屋の窓辺に置き、水切れしないように灌水してください。開花後の花柄は摘み取りましょう。花が終わったら春の植え替え時期まで5℃前後の低温の所に置き、新芽が徒長しないようにしておきましょう。
- 暖かい部屋の日の当たる窓辺では、**ゼラニウム**、**インパチェンス**などが咲き続けるので、水と液体肥料を与え続けます。
- **アマリス**の球根は開花予定の 35～45 日前位に植え替えを行いましょう。新しい通気性の良い用土と、球根直径の2倍サイズの鉢に、球根の首が出るくらいの浅植えにしましょう。
- **ケンシラン**の花茎が葉の間から見えたら 15～20℃の夜間照明の当たらない部屋に置き、水を与えて花茎を伸ばしましょう。

2 庭木・果樹類

- 降雪が多い場合は樹幹や枝の雪払いをします。
- **ツバキ**、**サザンカ**の鉢植えは-5℃以下にならない寒いところに置きます。

3 観葉植物類

- 冬は鉢土を乾かし気味に保つのが基本です。湿度が不足しているようなら葉水や、加湿器を使用するのもいいでしょう。引き続き肥料は施しません。枯葉は取り除き、カイガラムシが発生していたら布や古い歯ブラシなどで擦り落としましょう。
- **ポトス**などのつる性の種類は伸びすぎたつるを剪定し、姿を整えます。

4 多肉植物・サボテン類

- **シャコバサボテン**は水やりを中止し、無暖房の室内で凍らせない程度の場所で休眠させ、夜間照明する部屋には置かないようにしましょう。花が咲かなくなります。



3月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

- **フリムラ**類、**シクラメン**など開花中のものは管理が良ければ咲き続けるので、暖房の効いた部屋を避け、10～15℃程度の涼しい場所で、3000 倍に薄めた液肥を定期的に施します。
- **ゼラニウム**、**ハイビスカス**などは切り戻し剪定を行い、新芽を発生させて草姿を整え花付きを良くしましょう。
- **花壇用草花**などの育苗も中・下旬頃より開始します。ピートバンを用いては種し、ポリ鉢やプラグトレイへ移植して 50～60 日間の育苗です。

2 庭木・果樹類

- 雪解け時に積もった雪が沈み、低花木の枝折れや幹折れなどの被害が心配です。株の周りの除雪をして防ぎましょう。
- **果樹類**では3月入ると寒さも和らぎ、凍害の恐れも少なくなり、剪定時期となります。また、病虫害防除も新芽が出る前に石灰硫黄合剤等の散布時期になります。

3 観葉植物類

- 気温の上昇と共に、寒さに強い種類から少しずつ生育が始まり、鉢土の乾きが早くなります。水をたくさん与えた直後に寒さが戻ったり、真冬と同様の乾かし気味の管理で水を切らしたりしないように、毎日の天候予報を確認し、鉢土や植物の状態をチェックしながら水やりをします。
- 新芽が動き出している株には薄めの液体肥料を施しましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- 日が長くなり、昼間も暖かく春めいてきます。一部休眠中の種類を除き、多くの多肉植物が育つ季節です。
- 5℃以上の明るい場所で管理できる場合は、半月に1回程度水やりをします。それが無理な場合は、少し水を控えて、休眠状態にするのが安全です。

〈我が家の庭づくり〉 冬編 春に向けてのプランニング

《シーズンオフのこの時期、庭をもっと良くする計画を立てましょう》

昨年写した庭や花壇の写真があれば、それらを眺めながら庭の様子を思い出し詳細に計画を立てましょう。

1. 新しい苗を植える計画

庭の中にさみしい場所や花が少ない季節があれば、それらを補う植物を探してみましょう。目的の種類は早めに購入するのがおすすめ。(苗の店頭購入は4月～5月、通販の場合は植え込む時期を考えて取り寄せましょう)



アガパンサスの株分け

2. 株分け/掘り取り/移植計画

植栽が込み合ったり、いろんな種類が混ざってしまったり、バランスが崩れてしまったと考えられる場所があれば、株分けや掘り取り・移植などでバランスを整える計画を立てましょう。



各種 肥料・土壌改良剤

3. 施肥、土壌改良の計画

生育が良くない株や花付きが悪い株があれば、施肥や土壌改良することで改善することがあるので、思い当たるものを拾い出し、土壌改良剤や肥料の種類、必要な量を把握しておきましょう。



各種 支柱

4. 支柱の計画

昨年、雨や風で倒れてしまった植物の種類は、早めに支柱を立ててやる必要がある、場所の確認と支柱材選び、購入計画を立てておきましょう。

植物の病害虫 その77 りんごの 腐らん病 (病原菌 糸状菌)

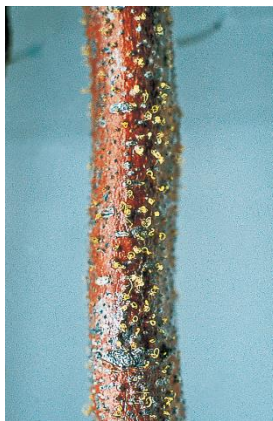
発生状況: リンゴなどの木が枯れてしまう恐ろしい病気です。明治末期～昭和初期まで大発生した後、防除対策によって減少したものの、令和年代に入って再度、多発傾向にある最重要病害です。

病 徴: 主幹、主枝部および枝梢部の樹皮に発生します。春先の主幹や主枝の病斑は、樹皮が褐色に膨れ、爪で剥ぎ取れるほど軟らかく、特異な芳香を発します。病斑はその後も進展し、その表面には黒色、粟粒状の小突起を生じ、サメ肌状になります。

寄主範囲: リンゴ、ナシ類、カイドウ類、モモ、マルメロ、ナナカマドなど。

伝染経路: 伝染源は柄胞子と子のう胞子です。柄胞子は降雨やみぞれ等で樹皮が濡れると、柄子殻から橙～黄色糸状の胞子塊として押し出されます。子のう胞子は降雨の際に子のう殻から放出され、空中を飛散して、9月頃ころから次年の7月まで分散します。

防除方法: ①早期発見に努め、被害部は完全に削り取り、削りあとや枝の切り口に「ゆ合剤」(トップジン M ペースト)を塗布します。②除去した被害部、剪定枝は放置せず適正に処分します。



腐らん病の春期病斑



夏期病斑

(北海道病害虫防除提要)



華やかな「カラー」を楽しむ

カラーの花は白、ピンク、黄色などの花色が華やかで、葉に白い斑が入ったものもあり人気があります。鉢植えで販売されているものの外に、非耐寒性春植え球根として販売されていることもあります。カラーは大別して①水分を好む「**湿生種**」と、②やや乾燥した場所を好む「**畑地種**」があります。白花で草丈の大きいものは湿生種。花色が豊富でやや小ぶりで、斑入りの葉などがある

のが畑地種の特徴と言われますが花は一見して同じように見えます。管理方法や開花習性も違うので、カラーを購入する際には「畑地」か?「湿生」か?を確認してください。また、葉が茂り過ぎると花付きが悪くなるので、必要に応じて芽カキや古葉を切除するなどの管理作業も必要になる場合があります。

- 1、**置き場所**・・・畑地種は、風通しの良い明るい半日陰へ。湿生種は日当たりの良い場所で管理します。生育適温は 20℃前後です。(育苗期は軟弱徒長しないように日当たりが良い場所で、水は控え目。)
- 2、**水やり**・・・湿生種は乾かさないようにします。鉢受けを敷いて水を溜めても良いでしょう。畑地種は鉢の表面が乾いてから水やりします。水分過多は病害を招き、乾燥し過ぎは球根肥大の妨げになります。
- 3、**施肥**・・・元肥としてマグアンプ K などの緩効性肥料を与えます。更に、開花時にも追肥します。湿生種は生育期間中、10 日に一回、液体肥料などで施肥を行います。
- 4、**定植**・・・庭に植える場合は晩霜の心配がなくなる5月下旬～6月初旬が適期ですが、鉢植えの場合は室内で3月下旬に定植すると生育期間の延長をはかれるので、鉢植えがお勧めです。鉢サイズは湿生種で8号、畑地種で5号が目安。用土は、湿生種の場合は＝赤土7＋腐葉土3、畑地種の場合は＝赤玉土6＋腐葉土2＋火山レキ2の混合割合を目安。植え付け深さは、3～5cm 程度の深植えにします。
- 5、**その他**・・・屋外で栽培した湿生種は最低気温が 10℃を切る9月下旬には室内に取り込みます。畑地種は 10 月中旬に球根を掘りあげ、水洗いせず、5℃程度の冷暗所で翌春まで乾燥貯蔵します。

展示室の植物 (112)

アナナス ナヌス (別名: ミニパイナップル)

学名: Ananas nanus パイナップル科 パイナップル属

ブラジルを中心とするアマゾン川流域に分布する多年草で、高さは 30～50cm ほど。硬い葉には刺があり、小さな実はパイナップルのようですが食用にはなりません。

ポルトガル人がパイナップルを発見したとき、原住民がナナス(亀の実)と呼んでいたことが語源になったそうで、パイナップル科に属している植物は総称して「アナナス」と呼ばれています。アナナスには、「**寿**」や「めでたい」という意味もあると言われ、縁起物として利用されることもあるそうです。

